

【高崎市】地域のスーパーアピタで集いの場「ふれあいの場アピタ」

01

どんなニーズ
(背景・きっかけ)

矢中地区協議体：アピタのある地域に居場所がない

岩鼻地区協議体：アピタに買い物に行っている人が多く、
なじみがある

スーパーマーケット「アピタ」：地域の住民に来てほしい

02

だれに・どのように
アプローチしたか

2層協議体推進役であるあんしんセンターに情報提供
アピタに地域情報を伝える

あんしんセンター、アピタ、1層SCで打合せを実施

03

どのような資源を
活用したか

場所として：スーパーアピタのフードコート

担い手として：協議体メンバー、地域支え合い
サポーター等

04

生まれた活動

毎月1回 10時～11時までアピタのフードコートに
高齢者が集い、茶話会を開催している。

05

活動の成果と
今後の展望

今まで閉じこもってた人が出てくるきっかけづくり、
地域の介護施設の方や子どもも集える場になった。
人と人との繋がりが、助け合い活動に発展させていく。

【高崎市】地域のスーパーアピタで集いの場「ふれあいの場アピタ」



店長と協議体メンバーで打ち合わせ

【高崎市】地域のスーパーアピタで集いの場「ふれあいの場アピタ」



フードコートで茶話会の様子

用語説明

①『協議体』

高齢者を支える地域づくりのため、住民、企業、NPO、行政、福祉関係者などが集まり、地域の「困りごと」を共有し、支え合いの仕組みを話し合う場

1 層：市町村区域 2 層：日常生活圏域（中学校区域等）

②『あんしんセンター（地域包括支援センター）』

高齢者の健康保持や生活の安定を目的とした、地域における総合相談窓口

③『SC（生活支援コーディネーター）』

各市町村で地域の様々な活動をつなげ、助け合いの仕組みを創出・強化する「調整役」